# 苗場山麓ジオパーク

Vol. 27

## 振興協議会だより

［発行日］平成29年10月25日
［発　行］苗場山麓ジオパーク推進室
［お問い合わせ］025-765-1600

### 津南みらい教室

９月６日に行われた津南みらい教室では、町内の小学６年生と中学１年生が、船津川について勉強しました。子ども達は、船津川の成り立ちや、そこに生息する生きものなどについて講師の話に真剣に耳を傾けていました。

旧中津小学校の東側を流れる船津川は、太田新田にある湧水が源流とされ、途中でいくつもの湧水が流れ込み、下流では下島川と名前を変えて信濃川に合流します。水が豊富で水温が低く、バイカモ（都道府県によっては絶滅危惧種に指定）などの水草や様々な水生生物が生息している貴重な川です。

身近にある小川について知り、この川を未来へ残すにはどうしたらよいか、苗場山麓の自然を守るために自分達に何ができるかを模索し、講話後はグループに分かれ船津川への想いをメッセージにした旗の作成をしました。

ジオパーク推進室では、子ども達の活動をバックアップするとともに船津川の調査と保全活動をすすめていきます。

### 目代氏をお招きしジオサイトの再検討

平成26年12月26日、苗場山麓ジオパークが正式に日本ジオパークネットワークへの参加が認められました。それから既に3年。来年の秋季には再審査を迎えます。

苗場山麓ジオパーク運営に対して、認定時にいくつもの「改善すべき宿題」が出されました。また、この間においてユネスコプログラムのグローバルジオパーク運営との整合性を計る議論が活発化しています。これら新たなる運営課題と宿題を客観的視点で厳しく指摘頂き、優しく指導を受けたいとの思いから、今年度事業で日本ジオサービス株式会社代表取締役社長の目代邦康氏を招き、学習会を開いています。

２回目の学習会であった10月５日、論点は「ジオサイト」の設定と階層的分類作業でした。ジオサイト・ナチュラルサイト・カルチャーサイトの区分と、各地点が地質的・地形的な背景から説明できるのかを協議しました。結論的には、サイトから外し、新たなる表示を検討することや、苗場山麓を説明するために必要な貴重な資源はマップには記載しないが記録し、プレミアムツアーなどの企画時のみ利用しながら保全対象にする方策などを語り合いました。

### ボーリング調査

10月２日、苗場山麓ジオパークの軟弱地盤調査として、ボーリング調査を実施しました。

これまでは、津南町内の信濃川沿いの調査を行ってきましたが、今回は、千曲川沿いの栄村横倉集落と、段丘上の程久保集落地内の２か所の旧河川跡で調査を行いました。取り出した土は、新潟大学へ持ち込まれ分析が行われます。

この土の中には、過去に噴火した火山灰などの情報が詰まっている可能性があり、その年代などから、地盤の状況とともに当地の成り立ちを説明するための手がかりの１つともなります。この成果は、年度末にまた報告させて頂く予定です。この他に、津南町内では、段丘の成り立ちを明らかにするため、手で掘る地質調査も実施しています。

## ガイド勉強会　鈴木牧之　ガイド：尾池三佐子

ジオパークガイド研修を受けるようになって、早４年が過ぎました。毎回新しい発見があり、研修というより、楽しみで参加しています。その中でも、鈴木牧之さんに興味津々。60歳ちかくで塩沢から切明まで徒歩で（その当時は当たり前）、６泊７日かけて往復の旅をする健脚の持ち主です。

先日そのガイド部会の研修として、鈴木牧之の話を南魚沼市学芸員の貝瀬香さんにしていただき、25名のガイドが参加しました。

貝瀬さんは、鈴木牧之の生家のある塩沢出身で現在も在住されています。鈴木牧之のことを小さい頃から聞いておられたのでしょう。お隣のおじさんのことを話されるように、生い立ちから作品、私生活まで語ってくださいました。貝瀬さんと25名のガイド、そしてその場に鈴木牧之がいるような錯覚に陥りました。語り慣れているというより、身に付いて話されていることに感心しました。ガイドって難しいけれど、おもしろいですね。

## ガイド研修　浅間山北麓ジオパークへ

今年度２回目のガイド研修は、昨年日本ジオパークに認定された浅間山北麓ジオパークの視察を行いました。参加者は認定ガイド23名、栄村から１名（広報部会員）、事務局１名を合わせ25名。視察場所は、鬼押出し園、浅間園、浅間火山博物館、鎌原観音堂の４箇所でした。以下に、参加者からの感想をいくつか紹介します。

- 今回の研修先は大地の公園そのもので、ガイドさんの天明３年の噴火の説明や案内はわかりやすかった。当ジオパーク（飢饉とのかかわり）とも関連があり、有意義だった。
- すばらしいジオパークでした。規模が違うという感じで、浅間火山博物館のようなところが津南にもあるといいなと思いました。ガイドさんの無駄なくわかりやすい話は、とても参考になりました。
- ガイドさんの発声がよく、聞きやすかった。浅間山と秋山郷の関係を知ることができた。土石なだれによる大惨事の話を聞けてよかった。観光客が300万人近く来るのにびっくり。苗場にもせめて20万人(多い?)位来てくれたらいいが…。

好天に恵まれ、爽やかな研修日和でした。次に機会があれば、嬬恋郷土博物館を訪ねたいものです。

鬼押出しにて

お土産に嬬恋特産のキャベツをいただきました

## 長生学園ジオパークツアー

津南町公民館では、町内の60歳以上を対象にした学級「長生学園（ちょうせいがくえん）」を開催しており、毎月１回全体で活動する全体会を行なっています。9月27日（水）の全体会では、34名が参加し、秋のジオパークツアーとして、津南町と栄村のジオサイトをまわりジオパークの知識を深めました。

文化センターを出発して、見玉不動尊で一日の行程の無事をお祈りした後、栄村の秋山郷総合センター「とねんぼ」で秋山郷の歴史や民具を見学しました。懐かしい道具に皆さん目を輝かせておりました。次に、大瀬の滝と黒駒太子堂に立ち寄り、お昼には栄村小赤沢の苗場荘で地元食材をふんだんに使った特製釜飯をいただきました。

昼食後は、布岩山、前倉トド展望台、見玉の石落しを訪れ、雄大な景色を堪能しました。バスでジオサイトの近くまで行くことができ、道中もガイドさんの話を聞きながらの年配の方でも楽しめるジオツアーでした。そして自然の美しさと偉大さを改めて実感した一日となりました。

大瀬の滝

前倉トド展望台

# 苗場山麓ジオパークのジオサイト

57の見どころを随時紹介していきます

## 中条川崩落地形（長野県北部地震）

**所在地** 栄村　**種 別** 地質

信濃川左岸の東頸城丘陵地域は、約260万年～220万年前頃の古日本海の海岸線付近でした。そのため泥層、砂層、礫層、火山灰層、亜炭層などの地層が見られ、これらを魚沼層と呼びます。そして、千曲川・信濃川左岸では、このような地質のため、地滑りが多発し、それらの地形を見ることができます。

長野県北部地震の際には、中条川や辰ノ口において、滑落と崩壊堆積が発生しました。

弘化4年（1847）、善光寺地震の際も、この中条川周辺で土砂崩れが発生し、下流の田畑や家屋に被害があったことを栄村から発見された絵図から見ることができます。

中条川に近いさかえ倶楽部スキー場やマウンテンパーク津南スキー場は、緩斜面と急斜面からなる変化にとんだスキー場です。これらのスキー場は、大規模な地滑りによってできた地形を利用しています。

〈長野県北部地震〉

東日本大震災の翌日の2011年3月12日、長野県北部、新潟県との県境付近で逆断層型直下型地震が発生しました。マグニチュード（M）6.7の最大震に続いて、M5以上の2回の余震が相次ぎ、栄村北信で震度6強、津南町では震度6弱を観測しました。

## 森宮野原駅 最高積雪 7.85mの標柱

**所在地** 栄村　**種 別** 自然

昭和20年の豪雪の際に、森宮野原駅付近で最高積雪7.85mを記録しました。積雪量は当時としては日本一で、その凄さを示す標柱が立てられています。当時、2階建ての家の屋根まで雪が積もり、電柱の電線をまたぐことができたと言います。当地域を東西に流れる千曲川・信濃川の谷は積雪量が多く、現在も最高積雪が4mを超えることがあります。この川に沿って走る飯山線沿線の白鳥～森宮野原間は、日本海からの距離が最も近く約30kmほどです。そのため日本海上から高田平野を経て、関田山脈を吹き上げて雪を降らす北西季節風を最もよく受ける位置にあるために積雪が多いと考えられます。現在でもＪＲの管轄する駅においては日本一の積雪記録となっています。

森宮野原駅は、長野県長野市の豊野駅から新潟県長岡市の越後川口駅に至るJR東日本飯山線の駅です。この駅名は、駅が位置する長野県栄村の森と近接する新潟県津南町の宮野原の２つの集落名を合わせてつけられたものです。

大正時代、新潟県議会議員であった島田茂（津南町）の尽力によって飯山線が引かれ、駅が設置されました。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

## 中越地区社会教育研究集会にて

９月７日(木)に第56回中越地区社会教育研究集会津南大会が開催されました。

この大会は中越地区の社会教育委員や社会教育関係者(参加者120人)から地域社会の現状を把握するとともに、「ふるさとの地域力を高め、未来を考える　～社会教育委員としてできること～」を主題とし、研究協議を行うことを目的として開催されたものです。

その講師として津南町教育委員会の佐藤ジオパーク推進室長から講演をしていただきました。『苗場山麓ジオパークを活用した地域づくり』をテーマとし、苗場山麓に広がる自然環境と潜在的資源、歴史や文化の話、郷土教育と地域振興への社会教育の関わりなどを映像とともに説明していただきました。大変素晴らしい講演で、「苗場山麓ジオパーク」の知名度がより一層高くなるのではないかと思います。

講演のアンケートでは、

「ジオパークの体験、学習によって子どもが変わり、大人も変わる！すごい！」
「スケールの大きい夢のある話で勇気づけられた、とても刺激を受けた」
「内容が興味深かったのでもっと聞きたかった」
「子どもとのふれあいが多岐にわたり、感心させられた」
「大変内容が濃く、面白く、ためになる」

などなど、ここには書ききれないくらいたくさんの感想が寄せられました。

## 栄村の植物を一か所で観察できる栄村自然植物園

栄村の北野天満温泉の奥に「栄村自然植物園」があります。津南町もそうですが、栄村は豪雪地であることや日本海側の気候であること、苗場山麓の成り立ちにもとづく地形や地質的な条件もあり、地域特有の植物や希少な植物が生育しています。風穴の植物などもその一例です。

その栄村の様々な場所にある植物をなるべく自然の状態で鑑賞ができるようにと、栄村出身で積雪地域植物研究所所長の石沢進先生が主になり、村内外のボランティアとともに植物の移植や管理育成を行っています。植物園内には、栄村の地図をかたどった場所をつくり、各集落で特徴的な植物を採取し、集落の場所に植える試みなども行っています。

村内の植物が一か所で確認できるのはここを置いて他にはありません。毎月、石沢先生と移植や草刈りの作業を行っていますので、ご興味のある方はぜひご連絡ください。

**お問合せ連絡先：栄村歴史文化館こらっせ ☎ 0269-87-2100**

## Vol.25「月夜立探訪記」へのご指摘をいただきました

振興協議会だより前々号の Vol.25「月夜立探訪記」７～８行目の「その左岸に東電のトロッコ道が見える」との記述は、「その先の魚野川左岸に東電のトロッコ道が見える」に訂正します。また、９～10 行目に掛かる「大正時代の工事用道路が下り」とあります。これの工事用道路は、現在の佐武流登山道入り口に続く道です。この工事用道路は、昭和 29・30 年に実施した東電の渋沢ダム建設に伴うものです。また当時、渋沢の飯場まで歩荷した方がご健在であることがわかり、機会を見つけて聞き取り調査を実施したいと考えています。

このたびの貴重なご指摘は、『津南学』６号に「書物から見る旧草津街道」を投稿頂きましたジオガイドの松元忠人さんです。今後も、秋山郷の交通史研究を進めて頂き、無知な事務局にご指導を賜れば幸いです。ありがとうございました。

## 『津南学』６号が刊行

津南町教育委員会で発行している『津南学』の６号が刊行となりました。この６号には、当ジオパークの学術指導委員であり、信州大学名誉教授の赤羽貞幸先生の講演録「信越境界地域の地形と地質」のほか、平成 28 年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業報告などが掲載されています。また、タレントやアーティストなど様々な分野の方からの投稿や津南の昔話、巻頭カラーグラビアには、津南町出身で鳥を追いかけて全国をまわっておられる祢津英彦さん撮影の苗場山麓に棲む美しい鳥達が並びます。

なじょもん、津南町文化センター、津南町観光協会、栄村・津南町のお土産店などで好評発売中です。（１冊 1,620 円）